



世界タイヤメーカーCEO 会議開催について

日本、欧州、米国、韓国の主要タイヤメーカー11社のCEOは、10月7日に米国・メリーランド州で第4回目のCEO会議を開催致しました。これを受け、共同のリリースを纏めましたので、添付資料にてお知らせ致します。

参加企業

- ・株式会社ブリヂストン
- ・コンチネンタル・A. G.
- ・クーパータイヤ・アンド・ラバー
- ・グッドイヤー・タイヤ・アンド・ラバー
- ・ハンコック・タイヤ
- ・クムホ・タイヤ
- ・ミシュラン・グループ
- ・ピレリ・タイヤ
- ・住友ゴム工業株式会社
- ・東洋ゴム工業株式会社
- ・横浜ゴム株式会社

(アルファベット順)

日本からは、ブリヂストン荒川社長、住友ゴム工業池田社長、横浜ゴム野地社長、東洋ゴム工業中倉社長が出席しました。

添付資料

1. プレスリリース

本件に関するお問合せ先

一般社団法人日本自動車タイヤ協会 総務部(広報・渉外担当) 大高・木下

電話 03-3435-9092 FAX 03-3435-9097

以上

2011年10月12日

タイヤ産業 世界 CEO 会議 プレスリリース

WBCSD, ETRMA, KOTMA, JATMA, RMA

タイヤメーカーCEOは、タイヤが環境と健康へ与える影響を調査する長期プロジェクトを更に推進することを承認。

10月7日に米国ワシントンD.C.近郊にて開催されたタイヤ産業世界CEO会議に、米国、日本、韓国、及び欧州を代表するタイヤメーカーのCEOが一堂に会し、タイヤが環境と健康へ与える影響の可能性に関する調査を行っている長期プロジェクトの進展内容を検討し、調査継続を承認しました。

このプロジェクトでは、2005年から「車両を通常使用する時に発生するタイヤ摩耗粉及び道路上の粉塵」及び「タイヤ製造に使用される材料」が環境と健康に与える影響の調査を行ってきました。また、持続可能な社会の実現に向け、廃タイヤ管理やナノマテリアルなどタイヤ産業として取り組むべき課題にも取り組んでまいりました。この取り組みは、スイス ジュネーブに本部を置く World Business Council for Sustainable Development (WBCSD=「持続可能な発展のための世界経済人会議」)の下で行われています。WBCSDは、世界のビジネス界と共に重要な環境問題や社会問題についての取り組みや提言を行っていることで知られる国際的な非営利団体です。

タイヤ摩耗粉及び道路上の粉塵(tire and road wear particles = TRWP)の環境と健康に与える影響の調査では、環境に存在する粉塵のサンプルを捕集し、これらに含まれているTRWPを定量化する方法を特定した上で、環境や生態系への影響分析を行ってきました。その結果、タイヤ摩耗粉による生態系への影響は無いことが明らかになりました。また、フランスのセーヌ川流域、米国のチェサピーク湾流域、日本の淀川流域で粉塵のサンプルを捕集し、その中に存在するTRWPの濃度を分析しました。その結果、河川の沈殿物や大気中に含まれるTRWPの濃度は低く、健康や環境への影響は無いことが明らかになりました。尚、調査結果は科学会議や学術専門誌で発表する予定です。

また、タイヤには、その耐久性を上げる、重量を軽くするなどにより、車の省燃費化やCO₂排出量削減に更に貢献することが社会的に求められており、そのためには新しいナノマテリアルの開発が必要になると考えられます。従い、各社のCEOはタイヤ産業における新しいナノマテリアルの研究開発のベストプラクティスをまとめたガイドを作成することを承認しました。尚、このガイドの作成にあたっては、フランス・パリに本部

を置く経済協力開発機構(OECD)の協力を得ることを検討しています。OECDは、将来動向の予測や国際標準の制定を行っている国際機関です。

廃タイヤ管理への取組みとして、プロジェクトでは2008年12月に廃タイヤ管理の現状を紹介するレポートを発行し、2010年6月により効果的な廃タイヤ管理システムの構築を目指し「廃タイヤ管理マニュアル」を発行しました。このマニュアルは廃タイヤ管理方法を体系的に紹介する内容としており、タイヤ業界団体の協力を得て作成されたものです。またプロジェクトでは効果的な廃タイヤ管理システムを他の地域に展開する活動も行っています。

このプロジェクトでは、タイヤ産業に関わる課題に早期から取組み、タイヤが環境や健康へ与える影響をより深く理解し、タイヤ業界を持続可能な業界にするための方向性を策定しています。本会議参加企業は、次の通りです：株式会社ブリヂストン、コンチネンタル・A.G.、クーパータイヤ・アンド・ラバー、グッドイヤー・タイヤ・アンド・ラバー、ハンコック・タイヤ、クムホ・タイヤ、ミシュラン・グループ、ピレリ・タイヤ、住友ゴム工業株式会社、東洋ゴム工業株式会社、横浜ゴム株式会社。現在、ブリヂストン、グッドイヤー、ミシュランが、グループの共同リーダーを務めています。また、本会議には、米国、日本、韓国及び欧州のタイヤの業界団体の代表者も出席しました。

尚、このプロジェクトの進捗内容については、定期的にWBCSDによって選ばれたアシュアランス・グループという第三者の有識者からなるグループにより、客観的な視点で審議を受けています。アシュアランス・グループには、ハーバード大学公衆衛生学ジョン・スペングラー教授、アセアン環境対策事務局よりラマン・レチュマナン博士、ドバイ警察学校研究機関よりメシガン・アラワール博士、パリ・ヴァル・デ・マルネ大学よりミシェル・サヴィー教授、財団法人電力中央研究所研究参事及び東京大学工学系特任教授の谷口武俊博士が参加しています。

以上